



1. 開催概要

- 展覧会名 「うごき」と「へんか」の視点・富山市ガラスコレクション展
- 会期 2017年2月18日(土)～2017年3月26日(日)
- 会場 富山市ガラス美術館 展示室1・2(2階)
- 作品数 24点
- 開場時間 午前9時30分から午後6時
(金・土曜日は午後8時まで。入場は閉場の30分前まで)
※初日のみ午後1時から開場
- 閉場日 第1、第3水曜日
- 観覧料 一般400円(300円) 大学生300円(200円)
()内は前売り・20名以上の団体、高校生以下無料
※1.前売りは一般のみ
※2.本展観覧券で常設展(4階コレクション展、6階ガラス・アート・ガーデン)もご覧いただけます
- 前売り券 取り扱い場所：アーツナビ、アスネットカウンター、
TOYAMA キラリ総合案内(1F)
- 主催 富山市ガラス美術館

2. 展覧会概要

ガラスを用いて制作された作品と向き合うとき、わたしたちはそこに何を見るのでしょうか。液体であるかのように今にも動きそうなかたち。普段意識することのない地球の重力。表面の削り痕や作品内部に留められた気泡などから感じる動きやリズム。素材を通してみる風景や時間の移ろい。外または内側に向かって輝く光と色彩。つるつる、ざらざらとした質感...など、ガラスという素材だからこそ成し得る表現を発見します。また、作品の周囲を巡る、覗き込む、より遠くから眺めるなど、見る人の身体的動作が加わることで、わたしたちは作家の意図する、あるいは意図した以上の「うごき」や「へんか」を作品の中に見出します。作品を介して生まれる他者や自分自身との対話は、思いがけない視点の転換、思考や感覚の豊かな広がりへと繋がります。鑑賞において視覚的、身体的、精神的に知覚するこのような「うごき」や「へんか」は、わたしたちの意識を作品へと惹きつけ、深く作品世界へと誘います。

本展では、富山市がこれまで収集してきた作品の中から「うごき」や「へんか」というキーワードをもとに、24点の作品を紹介します。作品に存在する「うごき」や「へんか」を探り、目で追うことで、それまで気が付かなかった作品や素材の面白さ、作家の想いが見えてくるかもしれません。

出品作家

アピルショウゴ、後藤洋平、ブライアン・ハースト、ウォーレン・ラングレー、ヨセフ・マレク、ニック・マウント、茂木里恵、パヴェル・ムルクス、佐野景子、ラダ・セメツカ、パヴェル・トルンカ、バーティル・ヴァリーニ（計12名、アルファベット順）



1 茂木里恵《雨滴Ⅱ》
2002年 富山市ガラス美術館所蔵



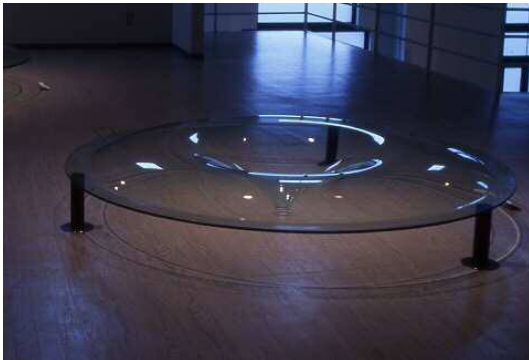
2 パヴェル・トルンカ《スペクトルシリーズより》
2006年 富山市ガラス美術館所蔵
撮影：室澤敏晴

3. 展覧会のみどころ

本展では、作品に表現された「うごき」や「へんか」に着目し、富山市ガラス美術館と富山ガラス造形研究所で所蔵するガラス作品のうち、24点を展示します。熱せられ、熔けたガラスが自身の重さや重力で形を変えたアビルショウゴの《無題》（1999年）や、装置によって動きを見せる佐野景子の《Playing Children》（2009年）、モアレ^注の効果によって見る角度で模様に変化するパヴェル・ムルクスの《M No.Ⅶ》（2001年）など、展示作品は個性豊かな「うごき」や「へんか」を私たちに見せます。

作品の動きや変化に目を向けることを通して、じっくりと作品を見ることやガラス作品に親しむこと、そして作品、あるいは作家に興味を持つきっかけとなれば幸いです。

※注：「点または線が幾何学的に規則正しく分布したものを重ね合わせた時に生ずる縞状の斑紋」（新村出編『広辞苑』岩波書店、1991年より引用）



3



4



5

- 3 アビルショウゴ《無題》1999年 富山市ガラス美術館所蔵
- 4 佐野景子《Playing Children》（部分）2009年 富山市ガラス美術館所蔵
- 5 パヴェル・ムルクス《M No.Ⅶ》2001年 富山市ガラス美術館所蔵

4. 作家プロフィール

アビルショウゴ：	1961 年長崎県生まれ、現在茨城県在住
後藤洋平：	1983 年新潟県生まれ、現在千葉県在住
ブライアン・ハースト：	1956 年ギブスランド（オーストラリア）生まれ、現在シドニー（オーストラリア）在住
ウォーレン・ラングレー：	1950 年シドニー（オーストラリア）生まれ、現在ブルックベール（オーストラリア）在住
ヨセフ・マレク：	1963 年ヴァルンスドルフ（旧チェコスロバキア）生まれ、現在スターリー・ハルツォフ（チェコ共和国）在住
ニック・マウント：	1956 年アデレード（オーストラリア）生まれ、現在リーブルック（オーストラリア）在住
茂木里恵：	1973 年埼玉県生まれ、現在栃木県在住
パヴェル・ムルクス：	1970 年ムニエルニーク（旧チェコスロバキア）生まれ、現在北ボヘミア（チェコ共和国）在住
佐野景子：	1985 年静岡県生まれ、現在静岡県在住
ラダ・セメツカ：	1973 年テプリツェ（旧チェコスロバキア）生まれ、現在同地在住
パヴェル・トルンカ：	1948 年ポジエブラディ（旧チェコスロバキア）生まれ、現在チェコ共和国在住
パーティル・ヴァリーン：	1938 年ストックホルム（スウェーデン）生まれ、現在同地在住

5. 関連プログラム

学芸員によるギャラリートーク

日時：2017 年 2 月 25 日（土）、3 月 4 日（土）、3 月 11 日（土）
3 月 18 日（土）、3 月 25 日（土）
各回午後 2 時より開催

会場：富山市ガラス美術館 展示室 1・2（2 階）

※関連プログラムは事前申込み不要です。参加は無料ですが、本展の観覧券の半券が必要となります。

また、関連プログラムの開催日時は都合により変更となる場合があります。詳細は HP をご覧ください。

HP：<http://toyama-glass-art-museum.jp/>

6. 出版刊行物

展覧会カタログ『『うごき』と『へんか』の視点・富山市ガラスコレクション展』
定 価 1,000 円（税込）
刊行日 2017年2月18日（土）刊行（予定）

7. 広報用画像

画像 1～12 を広報用に貸し出しいたします。

ご希望の方は下記の使用条件をご承諾の上、別紙の画像貸し出し申請書にて
EメールかFaxにて富山市ガラス美術館広報担当へお申し込みください。

E-mail : bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp

Fax : 076-461-3310



6 後藤洋平《白い世界》2007年
富山市ガラス美術館所蔵



7 フライアン・ハースト《聖なる器と陰影》2007年
富山市ガラス美術館所蔵 撮影：末正真礼生



8 ウォーレン・ラングレー 《インフィニティ・ボッド》
1998年 富山市ガラス美術館所蔵
撮影：末正真礼生



9 ニック・マウント 《Scent Bottle》2005年
富山市ガラス美術館所蔵 撮影：岡村喜知郎



10 ヨセフ・マレク 《The way out》1997年
富山市ガラス美術館所蔵 撮影：末正真礼生



11 ラダ・セメツカ 《アクアプレート》2009年
富山市ガラス美術館所蔵 撮影：室澤敬晴



12 パーティル・ヴァリオン 《振り子Ⅲ》1990年
富山市ガラス美術館所蔵 撮影：斎城卓

年 月 日

(宛先) 富山市ガラス美術館長

担当者： _____

Tel： _____ Fax： _____

E-mail： _____

住所： _____

団体名： _____

富山市ガラス美術館 画像貸し出し申請書

次のとおり、掲載用素材として画像を申し込みます。

1. 掲載（放映）媒体名： _____

2. 媒体種別：TV 新聞 雑誌 フリーペーパー 電子書籍 WEB サイト 携帯媒体
その他（ _____ ）

3. 掲載の趣旨
別紙のとおり（媒体資料を添付してください） _____

4. 掲載（放映）日時： _____

5. ご希望の画像番号： _____

○作品に文字やほかのイメージを重ねることはできません。また、縦横比の変更やトリミング、キャプション等の文字が
写真にかぶらないようご配慮をお願いします。

○作品掲出には指定するキャプションを必ず入れてください。

○作品写真の2次使用はご遠慮ください。

○商品のPR等の商業利用に関しては画像の提供は出来ません。

○校正ゲラの段階で情報の確認をさせていただきます。

○記事が掲載された場合はDVD、掲載紙、誌を一部ご寄贈いただきますようお願いいたします。

申請書送付先：富山市ガラス美術館広報担当 E-mail: bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Fax : 076-461-3100